

月寒高校 BEING ALIVE 第1回 「コーヒー産業の課題～環境と人権～」

気候変動により山火事や洪水、海面上昇など世界各地で様々な災害が起きるなかで、地球1つですむ暮らし続けるために若者世代が鍵をにぎっていることを佐座が紹介しました。その上でUCCの願能様から、コーヒーの生産・流通・消費を持続可能なものとするためにUCCが進めている取り組みについて、認証マークを中心に紹介していただきました。

ワークショップ概要

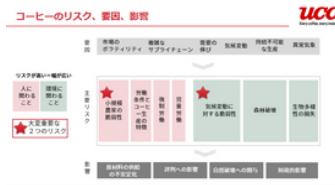
開催日時	2024年9月11日（水）15:25～16:15
参加者合計	2年生 28名
会場	北海道札幌月寒高等学校
主催	一般社団法人SWiTCH
協力	UCCジャパン・日本財団

タイムテーブル

15:25 レクチャー	地球沸騰化の現状
15:30 レクチャー	気候変動のインパクトを一番受けるのは若者
15:40 レクチャー	コーヒー産業の環境面の課題
16:00 レクチャー	UCCジャパンの取り組みから見えるサステナビリティ
16:05 グループワーク	自分のCO ₂ 排出量を知ろう
16:15 終了	

SWiTCHレクチャー「地球沸騰化する世界の若者」

佐座が、世界中の人々が日本人と同じ水準の暮らしを続けると地球が2.9個必要になる現状を紹介。プラネタリーバウンダリーや温暖化のマカニズムにも触れました。さらに、パリ議定書『1.5℃』や海面上昇など具体的な気候変動の問題についてクイズを交えながら紹介しました。このように国際的な潮流についてレクチャーした後、世界の人口の40%は若者であることに触れ、地球1つですむ暮らしを続けるために若者世代が鍵をにぎっていることを伝えました。



UCC レクチャー／コーヒー産業の環境面の課題

UCCの願能様より、コーヒー産業の課題についてご説明いただきました。コーヒーの将来には様々なリスクが存在していることをご紹介いただき、コーヒーの木の成長には3-5年の時間がかかること、1本のコーヒーの木からは40杯分のコーヒー豆しか取れないと、温暖化の進行によりコーヒーの木の生育に向いた土地が減少しているなど、環境面のリスクについてお話をいただきました。

UCCレクチャー／UCCジャパンの取り組みから見えるサステナビリティ

UCCを目指す「コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を」というテーマについて、具体的な取り組みに触れながら紹介いただきました。日本各地にあるUCCの事業所や工場で使用する電力を再生可能エネルギーに切り替えるなど、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み、エチオピアで進める森林保全プロジェクトについてもお話をいただきました。また、フェアトレードマークなどの認証マークにもクイズ形式で触れ、UCCでは2030年までに自社ブランドを100%サステナブルなコーヒー調達にすると決定していること、UCCの3つの基準（地球・人・製品）を満たした商品に「サステナブルなコーヒー調達」の認証マークを付けていることをご紹介いただきました。

生徒からの感想

「話を聞いて、人々に美味しいコーヒーを提供すると共に、地球温暖化対策についても考えながら商品を作っていくという2つを両立できていってすごいと思いました。自分もすぐには温暖化対策のため行動できるか分からないですが、ボランティア活動など調べるところから始めたいです。」

「自社でロゴマークをつくったり、認証マークをつける取り組みをしているということに興味をもちました。これから商品を選ぶ際には、品質や味の好みだけではなく、認証マークの有無という点も判断基準に入れようと思いました」





月寒高校 BEING ALIVE 第2回 「コーヒーと人権」

サステナブルというと、気候変動対策など環境への負荷を小さくする取り組みが想起されやすいと思います。しかしSDGsが目指す、将来世代にわたって平和で豊かな生活が持続するためには貧困や教育問題、ジェンダー格差など人権的な問題が広く解決される必要があります。コーヒーの生産を通じて世界中で活動するUCCがどのように人権尊重の基盤づくりを進めているのか紹介してもらいました。

ワークショップ概要

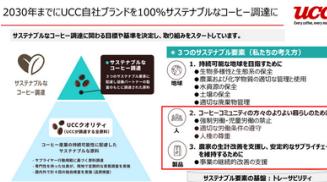
開催日時 2024年9月18日（水）15:25～16:15
参加者合計 2年生 28名
会場 北海道札幌月寒高等学校・オンライン
主催 一般社団法人SWiTCH
協力 UCCジャパン・日本財団

タイムテーブル

15:25 イントロ	1回目の振り返り
15:30 レクチャー	サステナブルの歴史とSDGs
15:40 レクチャー	コーヒーと人権
16:00 レクチャー	UCCジャパンの取り組みから見えるサステナビリティ
16:05 グループワーク	まとめ共有
16:15 終了	

SWiTCH レクチャー／サステナブルとは？サステナブルの歴史とSDGs

サステナブルな社会とは一言でいえば地球1つで暮らしていくる社会のことであり、SDGsはサステナブルな社会を作るための目標設定であることを紹介しました。気候変動は単なる環境問題に留まらずそこで生活する人たちの人権に深刻に関わる問題であり、サステナビリティを実現するためには、先住民・障がい者・子供など、社会的に弱い立場の人たちの人権が尊重されるような取り組みが必要であることを、様々な自然災害を例に示しました。



UCC レクチャー／コーヒーと人権

世界のコーヒーの8割は家族経営のような小規模農家により生産されています。小規模農家は財務的に脆弱である場合が多く、持続可能なコーヒー生産を行うための投資をすることは難しい現状があります。UCCでは、人権が尊重され安定的な供給網が確立されていることを確認した農家から購入したコーヒー豆を50%以上使用している製品に「サステナブルなコーヒー調達」マークをつけて販売しており、2030年までに自社ブランドを100%サステナブルなコーヒー調達にすることを目指しています。

UCCレクチャー／UCCジャパンの取り組みから見えるサステナビリティ

UCCは、コーヒー生産に携わる女性の技術力と地位の向上に取り組むIWCAに売り上げの1%を寄付することで支援を行っています。女性の収入が向上すると家庭や教育に使用されるお金が増えることが分かつており、地域全体へ良い影響が期待されています。また、ジエノサイドにより影響を受けたルワンダのフィエ郡ツヅ村での一村一品運動を2012年から支援しており、高品質なコーヒー豆の生産の支援や取水場の建設によりルワンダの人々の安定した生活につながっています。また、2024年4月には国際基準に則ったビジネスと人権に関する苦情・通報の受付窓口を設置しており、サプライチェーン上すべてのステークホルダーの人権が尊重される体制を構築中です。

生徒からの感想

「サステナブルは未来につないでいく取り組みだということや、人権尊重の考えのもと一村一品運動や通報窓口の取り組みなどが取られることを学んだ。特に、女性差別がまだ根付く環境でも、コーヒー産業に取り組む女性の支援に取り組むIWCAの活動がすばらしいと感じた。」

「サステナブルの考え方は斬新だったが、一村一品運動は経済成長につながる活動であるだけでなく、人権問題を企業として持続的に解決しようとする動きにつながっていることが良いと思った。」



月寒高校 BEING ALIVE 第3回 「コーヒーのサーキュラーエコノミー」

これまでの社会は、自然界から取り、作り、使い、捨てるという直線型の経済システムに依存してきました。しかし、このシステムは持続可能でなく、新たなシステム（循環型の経済システム）が必要です。この問題の概要をSWiCH佐座が解説し、さらにUCCの具体的な取り組みを紹介してもらいました。

● ワークショップ概要

開催日時 2024年9月25日（水）15:25～16:35

参加者合計 2年生 28名

会場 北海道札幌月寒高等学校・オンライン

主催 一般社団法人SWiCH

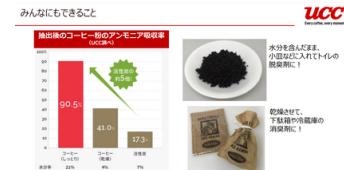
協力 UCCジャパン・日本財団

● タイムテーブル

15:25 イントロ	1-2回目の振り返り
15:30 レクチャー	循環していない資源の現状
15:40 レクチャー	コーヒーとサーキュラーエコノミー
16:00 レクチャー	UCCジャパンの取り組みから見えるサステナビリティ
16:05 グループワーク まとめ共有	
16:15 終了	

● 一般社団法人SWiCH レクチャー／循環していない資源の現状

日本で1年間に捨てられる食品廃棄物の量が札幌ドーム5杯分に相当することを紹介し、インドでゴミの廃棄場近くに住む家族の窮状を紹介するビデオを流した。ごみの焼却によるCO₂排出が地球温暖化を促進していることや、一方でごみを資源として再利用することで循環型経済を実現していくことを示した。



● UCC レクチャー／コーヒーとサーキュラーエコノミー

UCC含め今は多くの企業がサーキュラーエコノミー（循環型の経済システム）の実現を軸に事業を行っています。完全に循環させることは難しくても、再利用を考えた新たな原料を使用したり、廃棄する前に再使用の機会を設けたりするなど、様々な取り組みが行われています。UCCでは以前から限界ある資源の活用を大切にしており、24年からグループ全体の活動を改めてサーキュラーエコノミーに沿ったものとして整理しなおしています。

● UCC レクチャー／UCCジャパンの取り組みから見えるサステナビリティ

- ワンドリップコーヒーの“フック”的デザインを変更することで資源の使用量を減らす
- 包装にFSC認証製品やバイオプラスチックを採用している
- 抽出後のコーヒーかすを工場の燃料として活用したり、麻袋と混ぜて再生紙にしたりする
- 古くなったコーヒーマシンを廃棄せず、修理して販売している
- ラベルレスのペットボトルの販売により廃棄物を減らしている
- コーヒー抽出かすを農家で肥料として利用もらう
- 使用時の快適性とリサイクル時の簡便性を併せ持つ材料の開発
- 抽出後のコーヒー粉を消臭剤として有効活用できる（みなさんもやってみてください）

● 生徒からの感想

「UCCの関連会社も含めて一体となってサーキュラーエコノミーに取り組む姿勢になるほどと思われた。」

「7つの考え方を通してリサイクルについて具体的にどのような取り組みをされているのかを知ることができてよかったです。特に再生紙や消臭剤などは身近にあるものだったのですごいと思った。また業界初の試みで食品リサイクルについて取り組んでいて、お客様に選択してもらうために工夫しているのがすごいと思った。」

● 担当者の声

月寒高校 BEING ALIVE 担任 小泉卓哉 先生

生徒たちは最初、サステナブルやサーキュラーなど、聞いたことはあっても意識の薄い言葉に戸惑いを持っているようで、意見を出すことにも消極的でした。ですが、SWiTCH 佐座さんから現在の地球環境の問題について学び、UCC ジャパン願能さんからコーヒーを取り巻く現状と会社の取り組みについて紹介していただいたことで、興味を持ち始めたのが見えてはつきりとわかりました。特に、コーヒー生産地における人権問題や生活改善に、UCC ジャパンさんが関わっていることには驚きがあったようです。今回の講話が、生徒たちにとってグローバルな視点から地球の現状について考えるきっかけになって欲しいです。また、そのことについて自分たちにも出来ることを活発に話し合い、自らの意見を自信を持って発信出来るようになって欲しいと思います。

UCCジャパン 担当 願能千瑛様

第1回から第3回の講義では、コーヒー産業が抱える課題やUCCグループの取り組みを紹介する貴重な機会を頂戴しました。当初はサステナビリティという広いテーマに興味を持ちながらも、難しさを感じる方もいたようですが、持続可能な未来について考え、自らの行動を振り返り「ジブンゴト」として捉え始めている姿や変化が今はとても印象的です。特に、認証マークやサーキュラーエコノミーの取り組み紹介を通じて、「自分にもできることがある」と感じている方も多いようで、とても嬉しいフィードバックになっています。

これからもプログラムは続き、今後はインプットに留まらず、得た知識や情報をもとにアイデアを出し、具体的なアクションへと繋げていく大切なステップが待っています。次代を担う皆さんの柔軟な発想を心から楽しみにしていますし、最後まで共に歩んでいければと思っています。

● レクチャーの様子

